



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ

1

No.569



謹賀新年

まちひと百景

上平の風車群を染める 初日の出

昨年は世界規模での不況や経済の変動
地球温暖化の気象異変
食の安全に対する意識の変化など
文字どおり「変」な年でした。
一年の計は元旦にあり
今年は夢と希望の多き年でありますように

- 森町長新年あいさつ…2
- 苫前町議会だよりNo.74…3~8
- 赤い羽根共同募金…9
- 読書感想文コンクール…10
- 平井杯争奪剣道大会…11
- まなびの情報…12
- 長寿医療制度ガイド…13
- 成人講座「そばづくり」…14
- 国民年金…15
- 住まいる情報…16~17
- ちびっこギャラリー…18

苫前町
議会だより
合併号

まちの人口

人口/3,809人 (男/1,787人:女/2,022人)
世帯数/1,683世帯 (11月30日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

「新しい自治のかたち」の 確立をめざして

人が輝き躍動するまち苫前町



苫前町長 森 利 男

皆様、新年明けましておめでとございます。

お健やかに新春をお迎えのことと存じ、心からお慶び申し上げます。

昨年は本町にとりまして、大きな災害もなく天候にも恵まれ、基幹産業であります農業・漁業にあつては、豊作豊漁の年となりました。農業においては、水稲作況指数が一〇七の「良」となり、小麦についても高収量となるなど豊作に恵まれ、他の作物についても概ね平年並みの作柄となったところであります。また、漁業においても、ホタテやたこ漁がやや不漁であったものの、えびやいか漁が好調であったことから、目標額を上回る水揚げとなったところでもあります。しかしながら、昨年は原油価格

の高騰から燃油・資材等の価格が急激に上昇したため、経営的には厳しい年でもありました。また、昨年後半には世界的な金融恐慌から景気の後退が一段と進み、实体经济の急速な悪化や雇用の不安の拡大など、今後の個人消費に大きな影響を及ぼすことが懸念されるところであります。

しかし、産業の活性化はもとより少子高齢化、財政の硬直化、中心市街地の活性化、教育、福祉、医療などの課題も山積しています。従って、町職員給与削減や高級公用車の廃止など、出来る限り無駄をなくし奮起しているところです。

地方分権時代の中で自治体自らの能力が問われている時代です。このような時代だからこそ、まちづくりは、住民一人ひとりが前向きに生きるという状況をつくることであると思っています。

地域の元気は住民生活のベクトル（方向性）の総和であり、たとえ一人ひとりがばらばらに生活しているように見えても、誰にでも、まちづくりのためにできることがあると思っております。一人ひとりがそれに気づき少し生活を変えることで町は動く、十人に一人が変われば、町は大きく動くと思っております。

今年の主な事業等については、第三種苫前漁港は、引き続き国直轄で道内の拠点漁港として整備が進んで行きま

す。また、古丹別川、番屋の沢川や道力屋九重線についても、北海道の事業で着々と整備が進んでおります。また昨年は、町の助成を入れた北るもい漁業協同組合の水産鮮度保持施設が完成したところであり、今年は、苫前町農業協同組合が計画している豆類乾燥調製施設についても支援しながら整備を進めるものであります。

町事業については、古丹別市街の下水道整備も事業費の削減等を含めモデル事業の指定を受けて、有利な形で早く共用開始できる方法で進めているところであります。

本町は豊かな自然と歴史、文化に恵まれ、一次産業である農業、漁業や商業が存在し、素晴らしい人材が暮らす潜在力と可能性の溢れるまちです。その中であつて苫前町の持つ強みや可能性を見つめ直し、町民が総結集し「地域力」を高め、町の底力を上げていくことが、本町の将来に不可欠だと確信しております。

全国的に厳しい時代を迎えておりますが、苫前町の将来をしっかりと見据えて、悔いの残らないよう町民の皆様が納得のできる、しっかりとしましたまちづくりを進めていく所存であります。

本年も変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方にとって、ご健康で幸多い年でありますことを心よりお祈り申し上げます。

新年あいさつ

新春を迎えて

苦前町議会議長 星野 恭 司

新年あけましておめでとございませう。
 町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日頃から議会活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨年を顧みますとアメリカのサブプライムローン問題を皮切りにおきた米国大手証券会社の破綻による世界の金融危機、さらには、バイオエネルギー政策に伴う穀物の高騰、そしてさらなる追い打ちをかけたのが、投資マネーが引き起こしたといわれるガソリン等の化石燃料の異常ともいえる高騰、これらは、いずれも海の向こうでの出来事でありませんが、事実、これらのことが本町の産業、生活を直撃していることは、身を持って皆さんが実感していることであり、まさに、経済のグローバル化を思い知らされた事実であります。私たち自身が、世界に向けてアンテナを張り、世界の動向を注視していかなければならない時代になりました。

また、国内に目を向けると、財政の逼迫、少子高齢化、食糧自給率の向上等、大きな課題が山積しているにもかかわらず、いまだ解決の方向が見いだされていないのが現状であります。

特に小規模自治体においては、地域社会の根源をゆるがす「少子高齢化」に拍車がかかり、生まれ育った町で「住み続ける」ことさえ困難となっているのが現状となっております。

このように、地方自治体は、今、まさに財政問題を含め、全ての領域において混沌状態であるというのが、実態であります。

しかしながら、このような時代だからといって、「自治の歩み」を止めることはできません。

厳しい時代だからこそ、町・議会・住民が一体となって、「知恵」を出し合い、小規模を逆手にとった逆転の発想で、町の活性化を推進していかなければならない時であると考えております。

本町におきましても、財政的には極めて厳しい状況にあります。更なる行政改革の推進と、経済のグローバル化を見据えた機動力のある町づくりを町と議会が一体となって取り組む決意であります。

どうか今年も、より一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年が皆様にとりまして幸多き年でありませうようお願い申し上げます。私の新年のご挨拶といたします。

本年も宜しくお願ひします



猫島 優



青木 幸隆



西 大志



小倉 哲志



議長 星野 恭 司



林 秀行



阿部 俊一



渡部 一男



間宮 英明



田沢 収

議会事務局

事務局長 池田 文敏

総務係長 長澤 まゆみ

書記(併任) 成川 敬

加賀谷 之治

今野 雄一



苫前町議会

2009

議会報発行特別委員会

議会だより

1

No.74

委員長	猫島 優	大志	
副委員長	西 幸	隆一	
委員	青木 渡	部一	
	//	小倉 哲	
	//	田沢 收	
	//		

苫前郡苫前町字旭37番地1 TEL64-2385

平成20年 第4回定例会

平成二〇年第四回定例会は、二月一八日開会され、町長提出の条例四件、予算五件、承認一件、合計一〇件を原案どおりに可決した。また、決算審査特別委員会に付託された平成一九年度各会計決算は、「認定すべき」と決定し、同日閉会した。

議案の主なもの



・苫前町社会体育施設設置条例の一部を改正する条例について

平成二〇年度

苫前町各会計補正予算

・一般会計
補正額一億一、三〇八万一千円を追加し、歳入歳出予算の総額を三三億八、九四八万八千円とする。

・国民健康保険特別会計
補正額一、〇一七万六千円を追加し、歳入歳出予算の総額六億一、八万九千円とする。

・介護保険特別会計
補正額二、七五七万二千円を追加し、歳入歳出予算の総額三億九、四九三万一千円とする。

・後期高齢者医療特別会計
補正額一、八三万八千円を追加し、歳入歳出予算の総額五、五七六万一千円とする。

・下水道事業特別会計
補正額四八万四千円を減額し、歳入歳出予算の総額二億六、八二四万八千円とする。

・平成一九年度苫前町各会計決算認定について
・専決処分の報告と承認について
・苫前町私債権の管理に関する条例について
・苫前町税外諸収入金の徴収に関する条例等の一部を改正する条例について
・苫前町町税の滞納者に対する特別措置に関する条例について

議案の質疑

質 問宮議員

苫前町振興公社の金銭トラブルについて、町の監督責任としてどう指導したか。

答 平井企画振興課長

基本協定に基づく指導内容について速やかに指導するように措置をした。

答 森 町長

今回の事故の報告だが問題点を分析しており、社会通念上の範囲内での処分の判断をした。

質 問宮議員

言葉だけではなく、後日でも結構なので経過、結果をまとめて説明願いたい。

答 森 町長

総務財政課で調べた経過等を文書にて報告する。

質 青木議員

苫前厚生クリニックの赤字補填の件ですが、厚生連本部との契約書はどうなっているのか。

答 小丹保町民課長

平成十九年度損失額については七月二一日付で請求があった。

質 西 議員

苫前厚生クリニックを中心とした医療行政にどう対処しているのか。町がイメージを作る必要があるのではないかと。

答 山田総務財政課長

町が求める医療、地域が求める医療などに対して町民にふさわしい医療に対し引き続き検討をしていきたい。

質 田沢議員

B & G 海洋センターで車購入の件について説明願う。

答 山田総務財政課長

財団法人日本船舶振興会（日本財団）の助成事業である。

答 泉 社会教育課長

車の使い道は多目的な利用が可能。



平成19年度 決算認定

平成19年度各会計の決算は、10月29日、30日に決算審査特別委員会(阿部俊一委員長)で審議されました。委員会での質疑を要約して、お知らせします。

【一般会計】

質 西 委員

監査委員の意見書で「町民が関心の高い課題、問題は、常に町民に分かりやすく示し、理解を得るように努力すべし」とあるが、一九年度は「苦前厚生病院に絡む、説明不足等大きな課題が残った。それらの対処はどう考えているか。」

答 山田総務財政課長

町民への情報提供が不十分であったことから大変混乱を招き、反省している。今後、尚一層の情報開示に努める。

質 小丹保町民課長

厚生病院の二階のあり方、使用の方は厚生連本部、または町、医療対策特別委員会の中で協議を進め、町民が納得できる施設活用を検討していきたい。

質 間宮委員

新日本海地域交流センター(ふわたと)の委託料に絡んで、昨今の不祥事の話があるが事実関係はどうか。

答 竹内副町長

一九年度決算と直接関係ないかもしれませんが、委員長の了承があれば回答します。五月九日不祥事が起きて一〇月事故報告書が提出され、管理部門では厳しい処分を検討している。

質 間宮委員

議会に何故報告がないのか。一九年度に発生していないから、報告しなくても良いのではない。こうしたことはずっと先からあるのではないか。今まで多額の町費が使われている。町監査委員が監査する必要があると思うが。

答 森 町長

全て処理していない。取締役会もまだ調査中で隠しているわけではない。それが明らかになり、機会があれば議会に報告しようと思う。

質 斉藤代表監査委員

事故の件は初めて知った。確かに監査は出来るが、法律上監査委員が必要と認めたととき、町長のから監査の申し出があった場合と二通りの監査が出来る。公社の監査役の報告を尊重した上で、今後必要であれば実施しようと思う。

答 森 町長

代表監査委員と打ち合わせをして、進めることにしたい。

【国民健康保険特別会計】

質 西 委員

少子高齢化に伴い社会保障に要する費用の見極めが大事で、定期的にしつかりとした検証が必要のよう感じる。一九年度

に出た決算の数字を見てどう考えるか。

答 小丹保町民課長

一九年度決算においても医療費は伸びている。健診をしたから医療費が下がるというのは難しいところがある。健康は自分で守らなければならぬという意識づけが大切である。毎年検証しながら保健活動に努めた

質 田沢委員

町民税や国民健康保険税等の未収入金かなりの金額になっているが、徴収方法についてお聞かせ願いたい。

答 川村総務財政課長補佐

徴収強化策として給与や預金の差し押さえ等も考えており、町管理職を始めとして滞納整理にあたるよう理事者から指示も受けている。

質 竹内副町長

町税等滞納整理対策本部の設置を本年通して常設し、悪質滞納者に対しては裁判も辞さない方向で考えている。

【総括質疑】

質 西 委員

予算編成において枠配分など課題があると思うがどう考えているのか。

答 山田総務財政課長

平成二一年度の予算編成方針については内部協議しており、枠配分方式も五、六年継続しており、科目によっては限界にきている。

質 森 町長

大型事業なども予測され、調整を図らなくてはいけない。町民の機運も高まるように意識していきたい

質 林 委員

デジタル複合機は、賃借料と使用料の二つに分かれているが。

答 山田総務財政課長

デジタル複合機の賃借料がゼロ円であっても、使用料である程度の利益が期待できる背景あり、今後は調達方法を含め十分検討していきたい、さらに使用料の単価の低減と行政経費の抑制に努める。

質 林 委員

行政システム見積もり基準について

答 山田総務財政課長

IT関連の経費についても担当職員の見解を重ねながら直営で行えるよう努力している。

今後、システム関連経費の縮減についても、十分配慮していきたい。

一般質問

少子化の影響・ふわっとの運営など

子供たちの将来は



猫島議員

苦前町の義務教育の維持は今後どうあるべきか。全国的に子供が減少し、多くの自治体が学校の統廃合問題に直面し、統合や再編の動きも加速している。そこで、

一、平成二〇年度を起点に予想される〇歳児、六歳児、七歳児、一三歳、一四歳、一六歳の児童生徒数はどれくらいか。
二、現状を踏まえ一〇年後、一五年後をどのようにすることがベターと考えるか。またその理由は。



答弁 伊藤教育長



一、苦前町の人口は昭和三二年をピークに減少し、昭和三六年頃から学校の統合・再編について論じられ、昭和三九年には大がかりな学校統合案が具体化された。

本年度の出生見込み数をもとに推計すると未就学児は一六九人で平成二七年度の小学校一年生は一八八人、小学校全体では一四五人、中学生は八四人と見込んでいる。

二、児童生徒数の減少に伴い、長期的な展望に立った学校のあり方を検討する時期にある。よりよい教育環境で学習できる「適正な規模」が望ましいが、子ども一人ひとりの人格形成と社会の形成者の育成と両者の調和がとれた教育の実現が必要である。

また、地域とのつながりや長期的な視点から今後の学校のあり方についても議論を進めていかなければならない。特に義務教育は地域に根ざした歴史や伝統を考慮すると小規模校としての

充実も肝要であると思慮する。

しかし、少子化の傾向は避けられず、今後も様々な教育課程や社会変化に適切に対応するとともに、児童生徒の状況や保護者、学校関係者等の意向を的確に把握し、本町における長期的な展望にたった総合的な教育のあり方について検討を進めていく。

解散も視野に



渡部議員

株式会社苦前町振興公社の今後について

指定管理を受けて三年目に入っている振興公社であるが、平成二一年度末で資本金が枯渇し、債務超過に陥るのは必至と考える。資本金を少しでも株主や町へ返還する対策を検討する用意はあるのか。また、会社解散も辞さない覚悟と謝罪の勇氣と今後の「ふわっと」の運営を抜本的に改革する意識はあるのか。

答弁 森町長



公の施設機能を保持し住民福祉の向上などの設置目的を十分達成できるよう義務責任を果たしていかなければならないと考えている。あらゆる機会を通じ、住民の声に耳を傾け経営が良くなるような意見や提案を役員社員に伝え、経営改善に向け指導助言をしている。今後は第三セクターにとらわれず、「完全民間」への移行も視野に入れた運営形態のあり方を検討していきたい。



若い世帯への施策は



西 議員

近年における少子化の影響、あるいは昨今の経済状態の悪化、加えて、地域医療においては、出産、小児科など厳しい状況となり、若い世帯では子どもを産み育てるといった環境が整えられないまま様々に切り詰めたり、苦しい中でも生活している。しかし、この数年、生活に不安を抱え、やむなく都市部へ転出する人たちも後を絶たなく、いずれそうせざるを得ないと悩む世帯が増えている。こうした若い世代の方が、この町に残って生活していただく政策を考えているのか。そこで、

一、経済状態の悪化、所得等も減少している中で、お金に替えられない子どもの医療費を中学生まで無料にしてはどうか。

二、このこと以外で若い世帯が定住していけるような考えはあるのか。

答弁 森 町 長

一、医療費の無料化については、現行制度における費用のほかに、小学生の通院、調剤等及び中学生の入院、通院、調剤等に係る自己負担相当額、更には、小学校就学前の乳幼児分として、現在、対象者の負担金相当分の費用が必要になる。平成一九年度医療費ベースで算定すると約七五〇万円を全額一般財源で手立てしなくてはならない。

町の財政状態から実施は難しいが、段階的に進めることを検討したい。

二、生活者の不安の解消を図るための生活、雇用支援対策、子育て、教育支援、更には住まいや地域産業における生産性向上を視野に入れた成長力の強化対応策についても総合振興計画の各政策、財政健全化プランとの整合性を図りながら重用項目をあげ、時期をみながら実施したい。



広域連携の取り組みは



阿 部 議員

一、後期高齢者への人間ドックの助成は、来年度も予算化するの。

二、後期高齢者広域連合内の不公平をどのように是正するの。

三、管内広域行政連携への早期取り組みについて、将来の小規模自治体のあるべき姿を模索するにあたり、広域連携でのコスト削減、協力が必要と思う。報道によると管内各自治体において難色を示し、足並みがそろわないという。広域連携は各市町村において緊急の課題と思つが、どう考えているの。

四、総合行政ネットワーク事業にも広域連携が存在すれば、コストの軽減も可能と思う。今後は権限の移譲を含め、事務事業の増大が見込まれる。早急の広域連携を進めるべきではないか。

一、短期人間ドックに対する助成については、去る六月の定例会にて予算補正したが、今回も数名の申し込みがあり、今まで国保の被保険者として受けることができた助成等を後期高齢者の被保険者の皆様にも受けていただけるよう、町の施策として実施した。二一年度も予算化する予定である。

二、これまで各市町村において実施されてきた各種保険事業については、それぞれの考えから実施されている。連合内全ての市町村で統一した保険事業を実施することは、困難である。今後、統一した内容での実施が可能な事業を広域連合に対し、要望していきたいと考える。

なお、広域連合では、本年度途中からの事業実施であるため、全市町村での実施は難しい。来年度以降は、高齢者に対する保険事業については、全市町村で実施していくよう、確認する。

三、各自治体を取りまく情勢、地方分権改革の動向等を踏まえ、将来の生き残りを模索しながら、進むべき方向性を明確にすることが重要だ。地方財政の厳しい中、市町村合併が進まない事情のもと、自治体の基盤を強化し、効率で簡素な経営をめざす自治

答弁 森 町 長

体の一環として住民生活に関わりの深い事業の安定化を目指すことが必要と考える。広域連携の一つ目は、歳入歳出一体改革による交付税の削減に対し、自治を確保すること。二つ目は、行政改革で人件費抑制で職員定数を削減、広域連合の設置により事務、業務の省力化を進める。三つ目は、将来の行政費負担の軽減を図ることを目的とする。

このように、広域連携を進めることは、自治体のあり方の有効な取り組みと考えている。

四、貴見のとおりである。現在、留萌市、幌延町をのぞく七町村による広域連携研究会を立ち上げ、事務局体制、運営経費など、報告の説明を受けた。支庁制度改革の動向に関係なく前向きに検討することになった。事務事業について実施可能なものから連合に移行すべきと考えている。このことをふまえ、早急に連携の推進が図られるよう、取り組んでいきたいと考えている。ご理解願いたい。

委員会レポート

**総務文教
常任委員会**
平成20年12月8日
開催

所管事務調査事項

個人住民税の年金特別徴収開始に伴うシステム改修について
個人住民税の年金特別徴収開始に伴い、総合行政システムの改修を実施するものであり、事務の改善にも繋がる。

総合行政ネットワーク接続機器の更新について

本町は、平成一五年より総合行政ネットワークに接続しているがこの機器の製造終了に伴い保守対応が終了したが、しかし、現在活用実施している業務は中止、廃止することはできない。

今後は、北海道電子自治体共同運営協議会が実施するサービス提供設備への参加をするものである。
古丹別小学校の施設整備について

平成二一年度就学予定者のうち特別支援学級（病弱）での指導が必要な子供がいることから、障がい状況に配慮したトイレを改修

及び車椅子での移動が可能な教育環境整備を行うものである。

一部を改正する条例について
一部を改正する条例について

苦前町B&G海洋センター（プール）使用料について利便性の向上及び利用者の拡大を図るため、料金の改正とシーズン券を追加するための改正を行う。



苦前町B&G海洋センターで準備運動を行う子どもたち

日本財団福祉車両の配備について
本年度の「福祉車両助成制度」に申請していたところ、一二月一日付けにて正式に助成の決定通知が届いた。

**臨海地域
特別委員会**
平成20年12月5日
開催

新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわた）の指定管理料について

平成二一年度に建設されたとままえ温泉ふわたが経年劣化による施設及び設備の老朽化が著しく、町有財産の維持管理と利用者へのサービス提供等を考慮し、施設の維持修繕を行うにあたり、不足額が生じるため補正予算にて対応することとした。

- 当初委託料 一、九一九万円
- 補正額 二、二五五万円
- 補正後 三、一四四万円

全員協議会
平成20年12月5日
開催

町税の滞納者に対する措置に関する条例の制定について
近年町税の滞納額が増加傾向にある。町民の公平感を阻害することを考慮、納税等について著しく誠実性を欠く者に対し、行政サービスの停止及び氏名等の公表を目的として滞納者に対する特別措置を制定するものである。

個人設置型浄化槽設置整備事業について
下水道未整備地域における雑排水による公共用水域の汚濁等の生活環境の悪化に対処する。

（下水道事業認可以外の地域）
補助四〇％、個人負担六〇％
平成二一二年四月一日から実施予定
強い農業作り事業について
昨年からの原油価格の変動が激しく、米穀等の乾燥調整に用いる使用燃料費が増加傾向にあり、経営を圧迫している。また、燃料の使用量が多い温風式乾燥機は原油価格の高騰により、生産コスト抑制への対処が急務になっている。

このため、この事業を活用し省エネルギー型の遠赤外線乾燥機に入れ替えを行い、燃料使用量の削減が期待され、生産体制の整備を図るものである。

事業主体 九重第一利用組合
事業内容 穀物遠赤外線乾燥機
(10 t x 4基)

編集後記

先般九月定例議会で会議規則改正の中に『反問権』が設定されました。その目的は議会の活性化方策の一環として議論をより深めることとしました。

本年10月1日から施行し、その内容は議長から本会議へ招集された町長、教育委員会委員長、農業委員会会長、監査委員または委任、委嘱を受けた者は議員の質問、質疑に対し議長の許可を得て反問することが出来ます。各種委員会も同類であり、よって論点争点が明確になり発言に責任と必要に応じ対案の想定まで一連の流れ、経過、結果が浮き彫りに出来ることがメリットと思います。

今後これらをチャンスととらえ、切磋琢磨すべきと思います。ぜひご理解を頂きますと共にご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。
(猫島記)

赤い羽根共同募金

町内の各学校から募金の提供がありました

11月7日(金)に、古丹別中学校の生徒会長吉田楓さん(2年)、書記柴田彩里さん(2年)、会計瀬波ゆりかさん(2年)の3人が公民館を訪れ、「お年寄りや体の不自由な人のために使ってください」と、社会福祉協議会の開発事務局長へ手渡した。

11月20日(木)には、苫前中学校の生徒会長小林竜真くん(3年)、副会長折館遼くん(2年)、書記瀬川知未さん(2年)、会計白府佳歩さん(1年)の4人が役場の社会福祉協議会を訪れ、「社会福祉のために使ってください」と手渡した。

11月21日(金)には、古丹別小学校の児童会長杉野雅人くん(6年)、副会長鴨田祥宏くん(5年)、書記江島朋香さん(5年)、会計土田将人くん(6年)の4人が公民館を訪れ、「みんなの協力で集めました。困っている人のために使ってください」と手渡した。

12月5日(金)には、苫前小学校の児童会長長澤菜由佳さん(6年)、副会長千田大貴くん(6年)、清水理緒奈さん(6年)、書記石川楓さん(6年)、若狭未来さん(6年)の5人が役場の社会福祉協議会を訪れ、「みんなで集めたので使ってください」と手渡した。

11月初めには、苫前商業高等学校生徒会から募金の提供があった。

募金を受け取った開発事務局長は、「皆様の善意を地域の様々な福祉活動や、ボランティア活動のために活用させていただきます」と、感謝の言葉を述べた。



古丹別中学校の生徒会の皆さん
左から吉田さん、柴田さん、瀬波さん



苫前中学校の生徒会の皆さん
左から白府さん、瀬川さん、折館くん、小林くん



古丹別小学校の児童会の皆さん
左から土田くん、江島さん、鴨田くん、杉野くん



苫前小学校の児童会の皆さん
左から石川さん、清水さん、若狭さん、千田くん、長澤さん

まちの特産品ラベルが完成！

JA苫前町(松原幸博組合長)が販売する、苫前産の春まき小麦を使った「とままえ潮風うどん」と「小麦粉・春よ恋」の製品ラベルを、苫前商業高等学校(金濱茂校長)3年生の生徒が作成した。

矢田靖くんが作成した小麦粉のラベルは、苫前名物の風車と風、青い空をデザイン化し、「風にも雨にも負けずに育った小麦粉です」と文字を入れた。

田中悠平くんが作成したうどんのラベルは、青い海と風車をスケッチ風にデザイン化したもので、苫前町のイメージを上手に表現している。

「苫前町のイメージが上手に表現されている。うどんは、注文が多くて製造が追いつかない」と、JA苫前の酒井参事は笑顔で語った。

ラベルを作成した矢田くん(右)と田中くん(左)。中央は酒井参事



十一面観音立像の紙芝居DVDが完成

苫前町郷土史研究会(野澤哲美会長)が、北海道指定有形文化財の木造十一面観音立像の由来を元に作成した紙芝居DVDが、12月1日(月)に完成した。

同観音立像は、町内で最古の寺院だった香川の金宝院に安置されていた鎌倉時代の貴重な作仏で、苫前町では初の道指定有形文化財。

野澤会長は、「十一面観音は町の宝物。歴史の史実を形に残して後世に伝えていきたい。町民の手で作ったことに意義がある」と作成に至った経緯などについて話した。

紙芝居DVDは15分間で、昨年2月に完成した「ヒゲマ事件」に続く2作目となる。今回は販売の予定は無く、町内の小中学校や関係機関に配布し、町内では公民館の図書室で貸出しを行う。



完成のお披露目を行う野澤会長(左)と製作メンバー